

16日 14:00—17:30

都市史学会総会（会員限定）

研究発表 司会=小島見和（福山市立大学） ※終了後、懇親会を開催予定です。

都市史学会
Society of Urban & Territorial History

17日 9:30—17:30

基調講演=関東大震災時の東京における消防活動の記録と記憶 | 鈴木 淳（東京大学/日本近代史）

司会=勝田俊輔（東京大学/西洋史）

展示史料の紹介 | 勝田俊輔

シンポジウム 大災害の記録と記憶

司会=中尾俊介（東京大学/建築史・都市史）

趣旨説明=加藤耕一（東京大学/西洋建築史）

原発と津波—復興はどう記憶されていくのか | 羽藤英二（東京大学/都市工学）

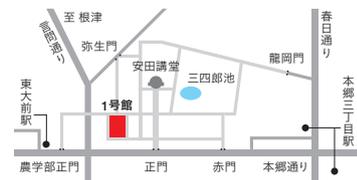
近世都市鳥取における水害記録作成と「活用」 | 岩淵令治（学習院女子大学/日本近世史）

関東大震災下の東大医学部 | 赤川 学（東京大学/社会学）

体験記から描く関東大震災—横浜市民の個人記録を中心に | 吉田律人（横浜都市発展記念館/日本近現代史）

東アジアからみた関東大震災 | 武藤秀太郎（新潟大学/社会思想史・東アジア近代史）

コメント=穎原澄子（千葉大学/西洋建築史・近代建築史） ※コメント後、全体ディスカッションを行います。



東京大学工学部1号館

東京メトロ南北線東大前駅より徒歩5分、
千代田線根津駅より徒歩10分、丸ノ内線・
都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩15分

一九三三年に発生した関東地震は、大火、虐殺事件をともなつて死者一〇万人超という甚大な被害をもたらした。一〇〇年がたった現在、東日本大震災をはじめとする二世紀の災害からの復興が継続するなか、さらなる巨大地震の到来が予測される。気候変動により激甚化する豪雨災害、コロナ禍や国際情勢の変化など、身近な場所から世界各地にいたるまで我々は危機を断続的に経験している。いま過去の災害を見なおすことは、都市史研究にどのような問題提起となるだろうか？

本シンポジウムでは、災害の後におこなわれた多種多様な記録の作成と、有形・無形の伝承による都市の記憶の蓄積に注目したい。そこには当時の組織、都市社会、政治体制、国際関係等の特徴が表現され、さまざまな主体による災害後の都市、地域にむけた思想が込められたものと思われる。こうした営みをあらためて史料から見直すことで、災害からみる都市史の可能性を模索したい。この作業はひるがえって、東日本大震災の後に大きな潮流となった災害史研究を受け継ぎ、危機のなかにあるわれわれ自身の「災後」を展望することにつながるはずである。

大災害の記録と記憶

都市史学会大会2023 東京

2023年12月16日 14:00—17:30 + 17日 9:30—17:30 東京大学工学部1号館15号講義室 + Zoom ミーティング

主催=都市史学会 共催=東京大学次世代都市国際連携研究機構 東京大学ヒューマンティーズセンター

参加費（両日共通、オンラインにて事前支払）=会員2,000円/非会員3,000円/学生・オンライン1,000円

申し込み=都市史学会ウェブサイトより <https://suth.jp/event/convention2023/> お問い合わせ=2023年度都市史学会大会実行委員会 convention2023@suth.jp